

当別文芸の会だよりNO.104

R1・12/10(連絡先・河地良一 TEL090-5076-2550)

11月の読書会は浅田次郎の「帰郷」でした

11月16日(土)の読書会は13:30より白樺コミセンを会場にして、会員のみなさん12名が参加されました。前日の初雪で10センチほどの降雪がありましたが、当日は曇り空で、あたり一面すっかり雪景色、いよいよ冬到来を思わせる季節になりました。

今回の指定読書本は、浅田次郎の「帰郷」(集英社文庫・638円)で、幹事の新名正勝さんの司会進行で感想交流が行われました。

浅田次郎は戦後の昭和26年(1951)生まれで戦争体験はありませんが(自衛隊入隊の経験はあり)、太平洋戦争に巻き込まれた人たちの、その後の生きざまが短編で6編掲載されています。

戦地では銃弾で倒れるよりは、食糧補給が途絶するなかで、餓死や疫病で倒れた人がほとんどで、遺骨のない戦死の報告だけが、郷里に届きました。

戦争で奇跡的に生き延びた人たちの、その後の人生を(まわり人たちもも含めて)どのように変えてしまったのか、考えさせられる内容の作品がほとんどでした。戦争の実体験のない現在の世代にも、真の平和の尊さ(言葉だけではなく)を、語り継いでいくことの大切さを、気づかせてくれる読書感想交流となったようです。みなさん、いかがでしたか。

なお当日は、この後「当別文芸」(第9号)の感想交流も併せて行いました。

次回の読書会のご案内

いよいよ、本年度最終回の読書会は、明年2月22日(土)13:30より白樺コミセンで行います。

指定読書本は、山田甲士の「ひなたや弁当」(小学館文庫)です。

この「当別文芸の会だより」NO.104と一緒にお届けします。

なお当日は読書感想交流会のあと、懇親会(夕食会)を兼ねて、「**文芸交流会**」を開催予定です(16:00~18:00)。会費は2,000円程度。

詳しい日程、会場等は、2月初旬にご案内いたします。よい新年を・・・

「政りごと 村度・村度 闇の中」 「もり・かけ・桜 証拠隠滅 逃げまくり」